

## 《最近の県内経済》 (2026年4月を中心として)

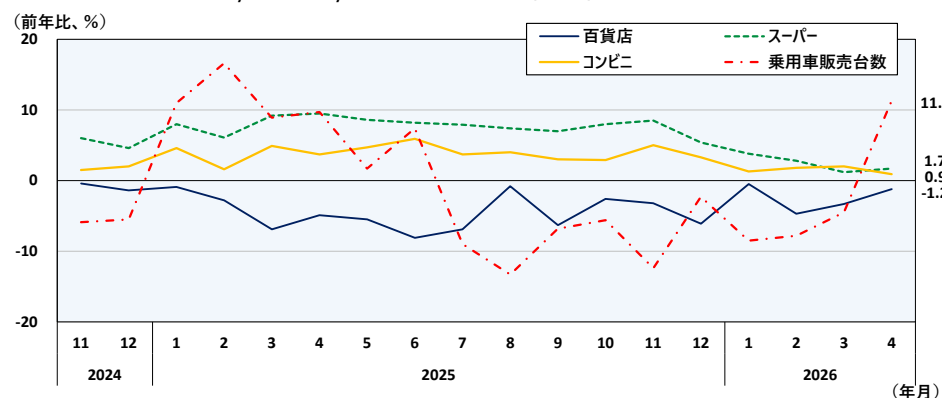
## 今月の概要

中東情勢の影響から先行きは不透明ながら、  
足許は緩やかに回復している



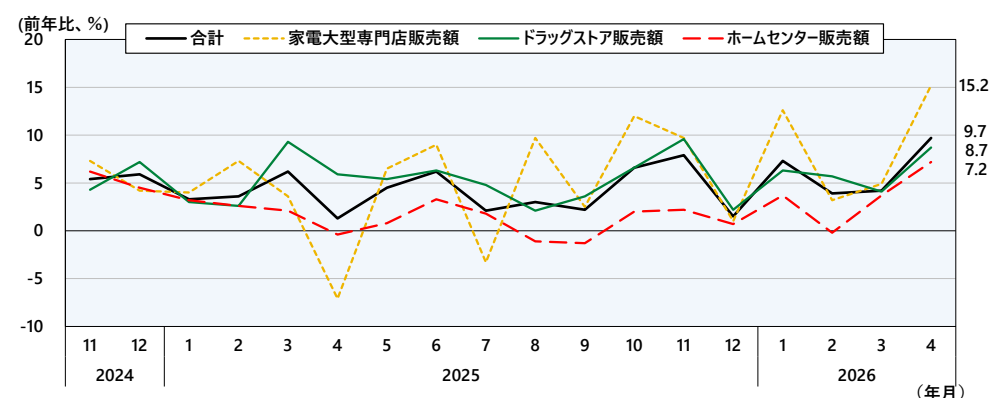
## 1 個人消費 ～緩やかに持ち直している →

百貨店/スーパー/コンビニ販売額、乗用車販売台数【前年比】



(資料) 経済産業省、埼玉県自動車販売協会など

専門量販店販売額【前年比】



(資料) 経済産業省

個人消費は、緩やかに持ち直している。

4月の百貨店およびスーパーの販売額（店舗調整前）をみると、百貨店は100億円で前年比1.2%減（22か月連続の減少）、スーパーは1,147億円で同1.7%増加（43か月連続の増加）した。また、コンビニ販売は581億円で同0.9%増加（24か月連続の増加）した。物価高を受けた節約志向が見られるものの、単価上昇による売上げ押し上げ効果が続いている。

また、乗用車販売は、前年比11.3%増と10か月ぶりの増加となった。内訳をみると、普通車が同18.7%増（10か月ぶりの増加）、小型車が同18.6%増（4か月ぶりの増加）、軽自動車が同3.2%減（3か月ぶりの減少）となった。

自動車税環境性能割（新車購入時に燃費性能等に応じて決められる税金）が3月末に廃止されたため、登録を4月へ後倒した影響が大きかった。

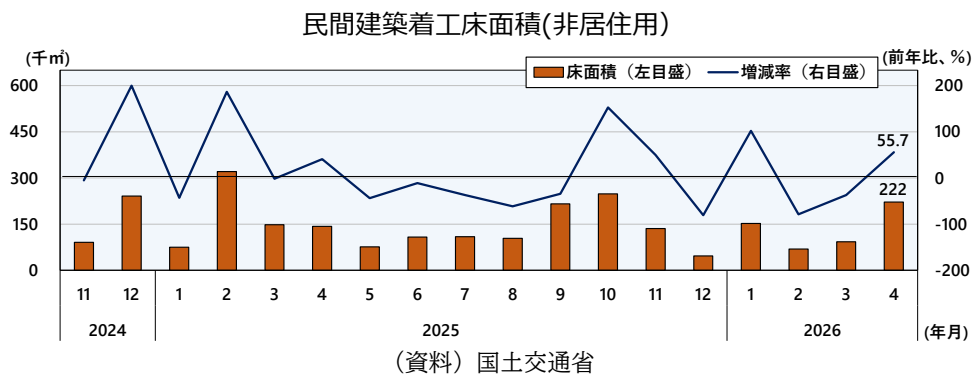
4月の専門量販店販売額は883億円で前年比9.7%増と43か月連続で増加した。内訳をみると、家電大型専門店が200億円で同15.2%増（9か月連続の増加）、ドラッグストアが475億円で同8.7%増（47か月連続の増加）、ホームセンターが209億円で同7.2%増（2か月連続の増加）となった。

家電大型専門店では、エアコンが2027年問題（省エネ基準の大幅引上げ）の影響で大幅に伸長し、携帯電話も引き続き好調であった。

ホームセンターでは、中東情勢の悪化による石油系商品（シンナー、ラップ、ポリ袋など）の需要急増が販売額を押し上げた。

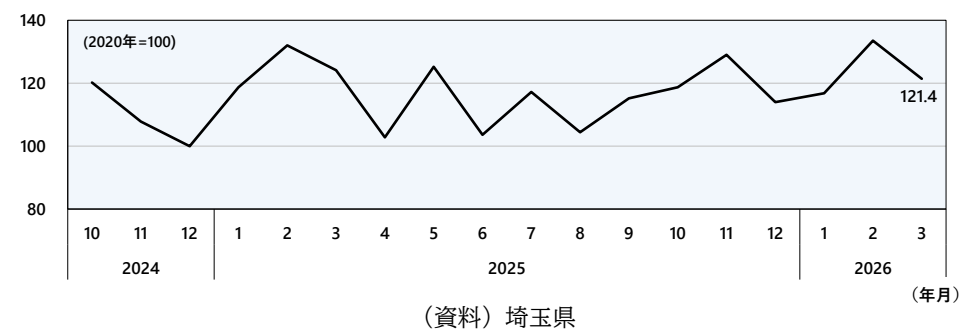
関東1都6県の消費者態度指数（原数値）は、3月〈34.0〉、4月〈32.6〉、5月〈33.8〉と推移している。

## 2 設備投資 ～増加基調にある ➡



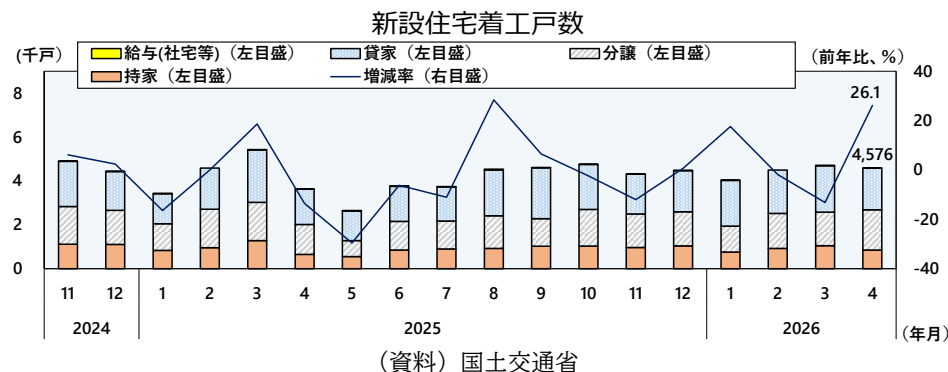
4月の民間建築着工床面積(非居住用)は、222千㎡で前年比55.7%増加した(5か月後方移動平均では、前年比37.2%減少)。用途別にみると、店舗、工場及び作業場、病院・診療所は減少したものの、事務所、倉庫、学校の校舎は増加した。

## 資本財出荷指数(季節調整済)



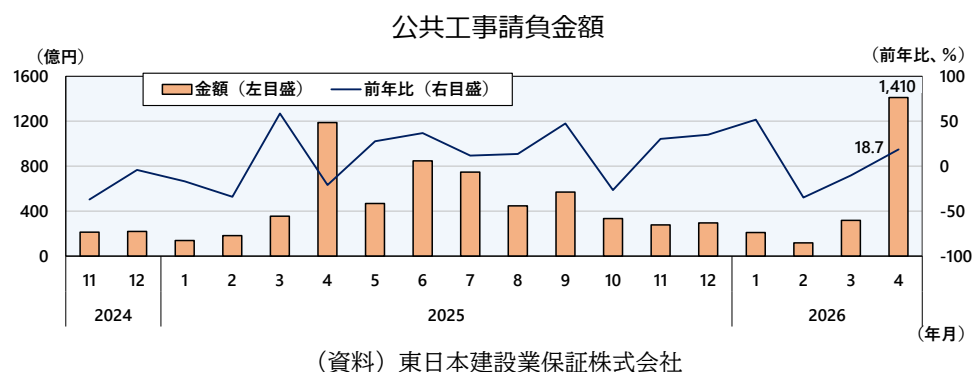
3月の資本財出荷指数(季節調整済)は121.4で、前月比9.1%減少した(5か月後方移動平均では、122.9で、前年比5.5%増加)。

## 3 住宅建設 ～弱含んでいる ➡



4月の新設住宅着工戸数は、4,576戸で前年比26.1%増加した(5か月後方移動平均でも、4,455戸、前年比3.6%増)。利用関係別にみると、持家(854戸)が同30.4%増、貸家(1,890戸)が同17.4%増、分譲マンション(750戸)が同62.0%増、分譲一戸建て(1,065戸)が同20.5%増となった。

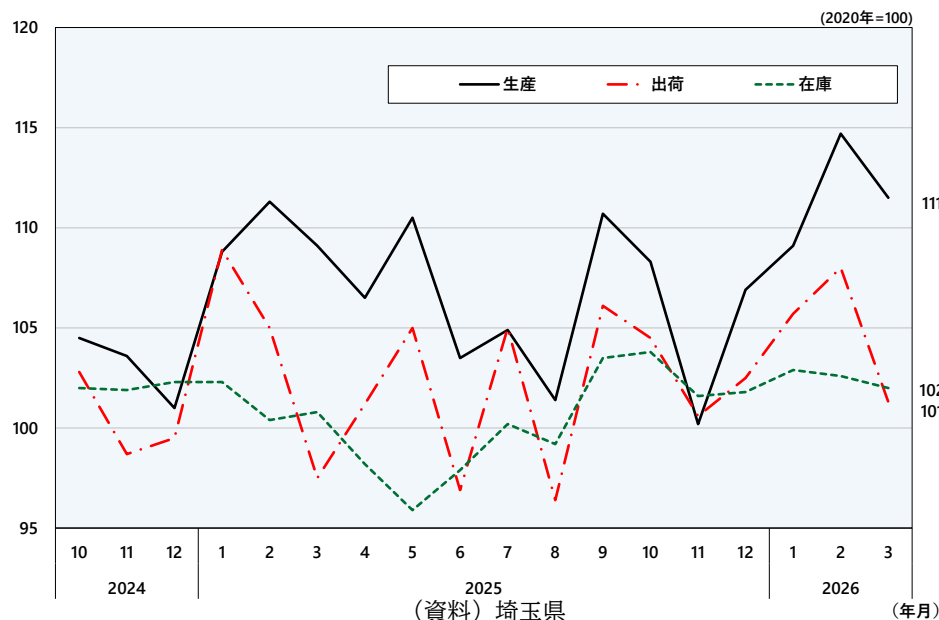
## 4 公共工事 ～底堅く推移している ➡



4月の公共工事請負額は1,410億円、前年比18.7%増加した。5か月後方移動平均では、470億円、前年比13.0%増で推移。発注者別の前年比をみると、国は減少したものの、独立行政法人等、都道府県、市区町村は増加した。

## 5 生産活動～底堅く推移している ➡

鉱工業生産・出荷・在庫指数(季節調整済)



3月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、111.5で前月比2.8%低下(4か月ぶりの低下)した。

化学(医薬品、印刷インキ)、汎用機械(空気圧機器、コンベヤ)などが上昇したが、生産用機械(フラットパネル・ディスプレイ製造装置、マシニングセンタ)、食料品(アイスクリーム、チョコレート類)などが低下した。

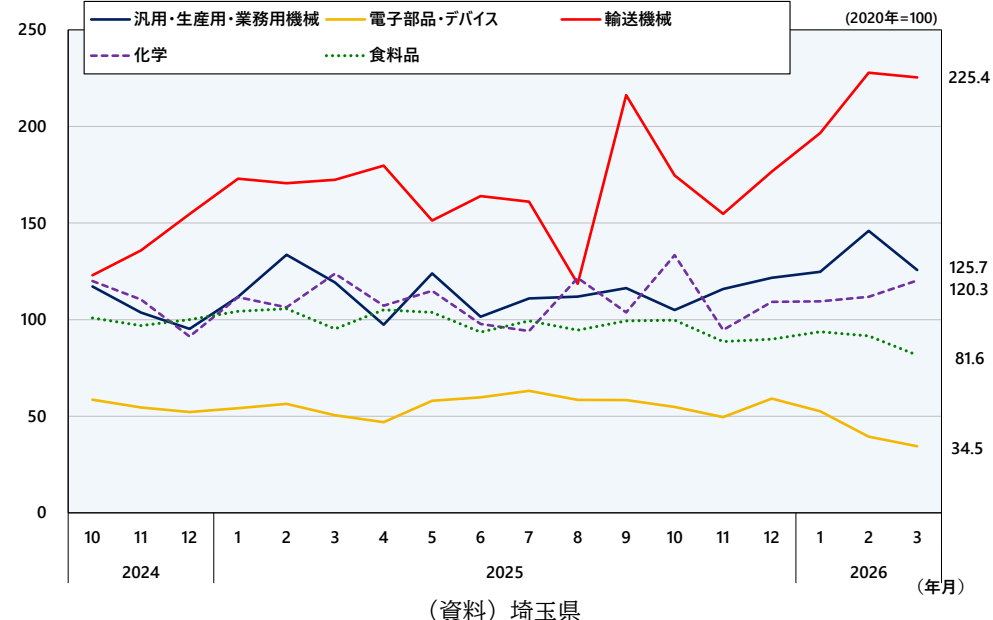
出荷指数(同)は、101.3で同6.2%低下(4か月ぶりの低下)した。

汎用機械(空気圧機器、コンベヤ)、電気機械(その他の電子応用装置、低圧遮断器)などが上昇したが、化学(医薬品、化粧品)、業務用機械(試験機)などが低下した。

在庫指数(同)は、102.0で同0.6%低下(2か月連続の低下)した。

電気機械(電気計器、鉛蓄電池)、プラスチック製品(プラスチック製容器、プラスチック製フィルム)などが上昇したが、情報通信機械(金銭登録機(端末機能付)、ガス警報器)、生産用機械(マシニングセンタ、刈払機)などが低下した。

主要業種の生産指数(季節調整済)



・汎用・生産用・業務用機械の生産指数(季節調整済)は、125.7で前月比13.9%下降し、5か月ぶりの下降となった。

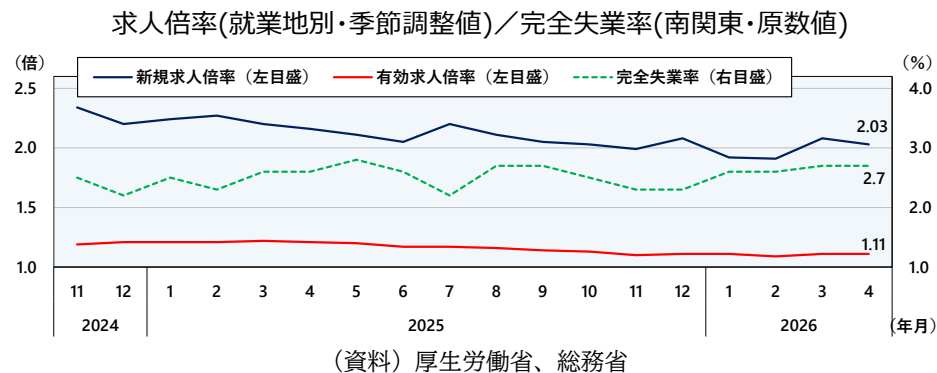
・電子部品・デバイス(同)は、34.5で同12.4%下降し、3か月連続の下降となった。

・輸送機械(同)は、225.4で同1.1%下降し、4か月ぶりの下降となった。

・化学(同)は、120.3で同7.6%上昇し、4か月連続の上昇となった。

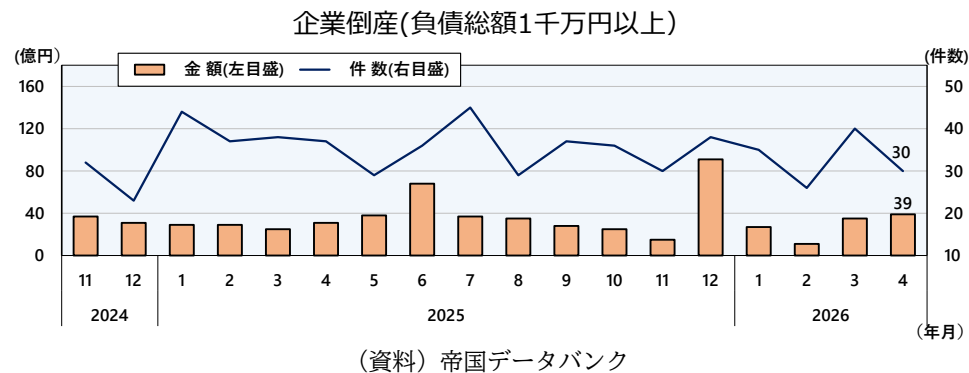
・食料品(同)は、81.6で同10.9%下降し、2か月連続の下降となった。

## 6 雇用情勢 ～緩やかに持ち直している ➡



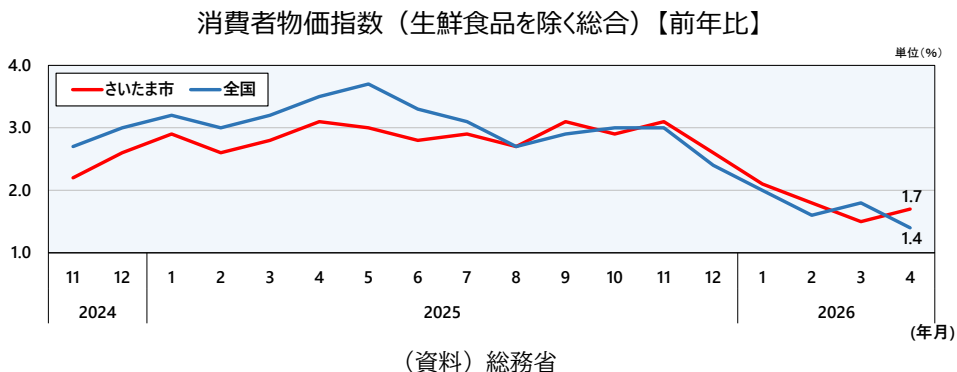
4月の有効求人倍率(就業地別、季節調整値)は、1.11倍で前月比横ばいとなった。新規求人倍率(同)は、2.03倍で同比0.05ポイント下降した。  
また、完全失業率(南関東、原数値)は、2.7%で前年同月比0.1ポイント上昇した。(前年同月比5か月連続の上昇)。

## 7 企業倒産 ～緩やかな増加基調にある ➡



4月の企業倒産件数は30件で前年同月比7件減少した。また、負債総額は39億円で同比8億円増加した(5か月後方移動平均では、件数は前年比2件減少、負債総額は12億円増加)。  
業種別にみると、建設業が最多で6件、次いで小売業とサービス業が5件となっている。主因別では、販売不振が26件となっている。

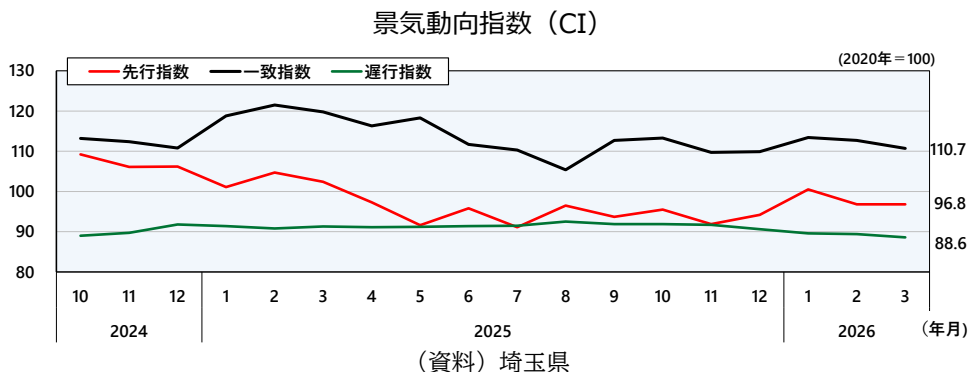
## 8 消費者物価 ～緩やかに上昇している ➡



4月の消費者物価指数(生鮮食品を除く総合)は、111.5で前年同月比1.7%上昇した(55か月連続の前年同月上昇)。

食料(菓子類(チョコレートなど))、交通・通信(通信(通信料(携帯電話)など))などが上昇し、全体を押し上げている。

## 〈参考〉景気動向指数(CI)～下方への局面変化を示している



- ・3月のCI一致指数(景気の現状を示す)は、110.7で前月比2.0ポイント下降し、2か月連続の下降となった。
- ・CI先行指数(景気の数か月先を示す)は、96.8で同横ばいとなった。
- ・CI遅行指数(景気に遅れて反応する)は、88.6で同0.8ポイント下降し、5か月連続の下降となった。